

友の会通信

定期総会報告

今年度は「友の会ウィーク」を飛躍の機会に

“着実に活動を重ね、広がりをもった1年”



祝辞を述べる高木葛飾図書館長

昨年6月7日に設立総会を行い、活動を開始した友の会の第2回総会が5月16日(土)午後、葛飾図書館で開催されました(会員56名、出席30名、委任状12名で総会は成立)。川越会長の挨拶のあと、高木葛飾図書館長のご挨拶を受けました。議長を選出し、総務・事業および広報の各委員会の平成20年度事業報告と決算・監査報告が提案されました。発足後の1年間、友の会のスムーズな運営への努力、イベントの開催や3回の広報紙の発行など、着実な活動と広がりを持つことが出来たこと、しかし会員相互や委員会内部の連絡体制の整備が必要なことなどが拍手で確認されました。

総務委員会からは各種イベント開催時に新会員の募集を行うこと、事業委員会からは活動内容ごとに独立したワーキングチーム(仮称)を立ち上げ、委員会自体の発展的解消に向けて検討を開始すること、また10月17日の中央図書館の新規開館に伴うオープニングイベントを友の会として可能な限り協力していくこと、特に10月31日(土)から11月8日(日)の9日間、『友の会ウィーク』を設定し、友の会主催または図書館との共催による様々なプログラムを実施していくこと(次頁に第1回説明会の模様を記載)、広報委員会では友の会通信の季刊発行や都内他区の公立図書館友の会との交流、中央図書館開館特集や“心にのこる 私の1冊”の投稿募集などの案が示されました。さらに一般80名、賛助10名の会員を基本とする予算案も含め、拍手で承認されました。



退任挨拶をする川越前会長

新会長に朝野熙彦氏を選出

最後に会則の一部削除、そして川越会長の辞任による朝野会長の選出、会計監査の交替が確認され、すべての議案が原案通り承認されました。

その後、休憩をかねた入会届けの受付を行ったのち、朝野首都大学教授による『ネット時代における執筆作法』と題する20分のミニ講演会が催されました(講演内容は次頁参照)。

会 長	朝野熙彦(新任)
副 会 長	鶴岡幸子
会 計	中田実枝子 村上祥子
会 計 監 査	斎藤 美代 鵜木輝一(新任)
総務委員長	福部國弘
事業委員長	川島 勉
広報委員長	高橋久郎

そして交流会では事業委員会のオープニングイベントでの実施案の説明と参加者との意見交換をして、第2回総会は終了しました。なお役員は表の通りです。また、葛飾図書館からストラップ付ネームプレートの提供を受けました。現「葛飾図書館」は「新宿図書センター」と改称し、地区館と同様の運営をすること、従来通り食堂も利用できるということです。

講演会「ネット時代における執筆作法」（講演要旨）

誰もが執筆者になれる時代だからこそ“コピペ”に注意

ネット時代は、誰もが容易に情報発信者になれる時代です。アジアだけで5億3千万人の人々がデジタルワールドで自己表現を行っています。欧米人との大きな違いは原著者が誰であるかを尊重する「オーサーシップ」の意識が低いために、著作者人格権を無視したブログが多いことです。

ネットとPCを使えば簡単にコピペ（COPY & PASTE）ができるために危険性も高まります。他人が書いた文章や図表を「無断で利用」することは盗用に当たります。出版社に経済的な損害を与える行為は著作権の侵害になります。いくら原文を要約しようが言い換えようが盗用は盗用です。文書の目的が公的な報告書であることが不正行為は不正行為です。

一方で引用を明らかにすることは正当な行為です。引用にあたっては、出典の著者名、出版年、書籍名、出版社名、引用した掲載ページまで明記してクレジットを明らかにしなければなりません。ホームページや新聞記事、翻訳書の場合など引用の手続きは厳格に約束されています。煩わしいかもしれませんが、無知であったが故に社会問題を引き起こした事件が最近頻発していますので注意しましょう。オーサーシップとは、著作物を生み出した真の貢献者こそが著者を名乗るべきだ、という執筆者が遵守すべき倫理です。自分の著作物のオリジナリティを主張するには、世界で初めて自分が発表した主張や発見であることを証拠立てなければなりません。最後にノンフィクションの執筆に際してオリジナリティを主張するコツを紹介しました。

図書館友の会会長 首都大（旧都立大）教授 朝野熙彦



中央図書館オープニングイベント『友の会ウィーク』説明会

おはなし、朗読、劇、紙芝居などの 30近いボランティア団体、参加の意向！

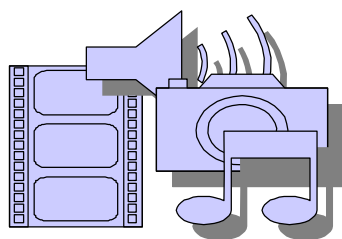
5月30日（土）午後2時から葛飾図書館で中央図書館オープニングイベント期間中に行う『友の会ウィーク』開催へ向けた第1回説明会が開かれました。これは葛飾図書館友の会の呼びかけで、10月17日の図書館新規開館を祝い、10月31日（土）から11月8日（日）までの9日間、区内の図書館などで活動実績のある団体・個人に参加・協力を求めて、新図書館内で友の会主催または図書館との共催で実演、発表、体験、展示などを展開しようと企画されたプログラムです。

説明会には23団体、約50名の参加者と中央図書館整備担当職員、友の会実行委員などが集まりました。朝野友の会会長の挨拶の後、出席した各ボランティア団体の活動紹介や現時点で企画しているイベントの内容などを発表し合いました。また図書館からは配置図をもとに、中央図書館の概要と関連行事の説明を受けました。そして実行委員会の川島事務局長が『友の会ウィーク』の趣旨・概要や今後のスケジュールなどについて説明しました。

参加団体のイベントの主な内容は、おはなし・朗読・劇・紙芝居などの実演や体験・展示など多岐にわたっています。参加者からは音響問題やイベント開催の周知方法に関する質問や事前の新図書館“見学会”の実施などの要望が出され、今後図書館側で検討していくことになりました。

最後に、参加団体から事前に提出されたアンケートをもとに仮設定された日程表をタタキ台に、現時点での希望や変更による日程の調整を行いました。そして各団体から参加の形態や開催日時、利用場所（児童室や大・小会議室）などを最終調整し、約1か月後に事務局から各団体に再度日程表を通知することになりました。

次回の実行委員会と参加団体による実施に向けた運営委員会（打合わせ）は9月に予定されています。



鎌倉図書館 = 住宅街の中のちょっとしたオアシス、YA 集まれ！ =

金町駅南口よりJR小岩駅行きバスで、鎌倉小学校前下車。お地蔵様のある貨物線の踏切を渡って道なりにしばらく行くと、しらゆり幼稚園を過ぎた左側角に、図書館への矢印板がある。左折して50メートルほどで右側に茶色の建物の図書館玄関に到着。館内はとても明るく、新しく、開館20年余になるとは思えないほど綺麗で、新築したてのよう。川島事業委員長も見えて5人での訪問である。

応対いただいた石橋館長は本の整理が行き届かなくてと、大分気にしておられる様子。2階の閲覧室はガラス張りで、とても明るく、右側を一般者用に、左側をYA（小中高校生）用にと分けられ、利用しやすい感じ。館長によると、“地域館”としては「消費者問題」がテーマ館なので、特別コーナーにはかなりの専門的な蔵書が並んでいる。また本に親しんでもらうために、特に中学生に来館してもらいたいとして、YAに力を入れている。4年前から非常勤メンバー2名が担当してアイデアを出し合い、「JOURNEY FOR アダルト ~本への旅が快適になるように~」と題する参加型の機関紙を発行、今年4月で34号を数える。桜道・奥戸・高砂中学校の生徒全員に届くよう2,500部印刷し、イラストのコンテストも行い、館長賞やジャーニー賞も発表しているという。YAにグループ学習室として児童室の一角に4テーブルを設け、飲食はダメだが、マナーある行動を条件に、夕方5時から8時頃まで“グループ学習のための談話スペース”として提供している。この「グループ学習スペース利用申込書」が用意されている。また団体登録を行うと会議室が9時まで利用できるとのこと。他館と同様、映画会や読み聞かせ会なども行われ、閑静な住宅街の中であって地域社会と文化の接点としての役割を果たしている感を強く受けた図書館だ。



（取材 / 横嶋、中里、西村、矢野）

『さよならリサイクル市』への協力進行中

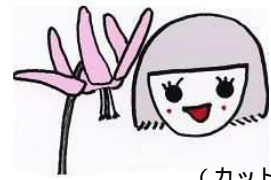
楽しみながらのLPレコード処理作業



現在、友の会では6月21日（日）に葛飾図書館で開催される『さよならリサイクル市』にむけてレコードのリサイクル処理の協力を続けています。葛飾図書館に集められた区内図書館の所蔵LPレコードを、ポピュラー、クラシック、ジャズなどに大きく分け、さらにカテゴリー別に分別したレコードをすべて除籍し、雑誌やCDと共に『リサイクル市』で無料配布するための作業です。3月に担当職員から処理の流れや手続きを学んだ後自主的に協力を開始しました。

約3,500枚のレコードをジャケットのバーコードと所蔵していた図書館名にシールを貼り、レコードに貼られたナンバーシール等や、歌詞カードや解説書に押された館名印をマジックで消すという時間と手間のかかる処理です。しかし、昔懐かしい歌手やアイドル、若かりし演奏者などのレコードジャケットを見ながら、当時の思い出に話の花を咲かせたり、解説書をチラ見(?)しながらの楽しい作業にもなりました。毎週土曜日午後には友の会有志が集まって作業を進め、6月上旬、処理がほぼ終了しました。なお友の会は『リサイクル市』当日、会場準備や受付、見回りなどの協力や会員の入会受付も行います。

友の会 Q & A



(カット*H・I)

『葛飾図書館友の会』の会則を中心に主な内容を説明します。

Q 目的は？

A 葛飾区立図書館でのボランティア活動や学習会・交流会などを通じて、区民のための人づくり・街づくりとしての図書館であり続けるように守り育て、生涯活動の場として共に学ぶことが主な目的です。

Q どんな活動を行うの？

A 図書館への協力、講演会・学習会・見学会などの開催、会報の発行、他の友の会などとの交流や連携などです。今後予定・企画しているのは「新図書館開館イベント」、図書館の補助活動やサービス体験、読書会・学習会の開催などで、会員相互で実現に向け検討していきます。

Q 会員になるためには？

A 参加し活動する一般会員（年会費は¥1,000）と、企業・団体・個人の賛助会員（年会費は¥2,000）から構成され、入会届けの提出と年会費納入で手続きは完了です。なお、会員の有効期限は翌年3月31日までで、会費の納入をもって継続します。

Q どんな委員会があるの？

A (1) 総務や渉外活動を行う「総務委員会」(2) 企画・運営を担当する「事業委員会」(3) 会報の発行や情報提供を担う「広報委員会」の三つの委員会があります。会員はいずれかの委員会に所属し、出来る範囲で活動していきます。特に「事業委員会」が予定しているアイディアは豊富です。

Q 総会と役員は？

A 総会は年1回開催され、会長・副会長などすべての役員の任期は2年で、再任をさまたげないとします。

Q 連絡先(問い合わせ先)はどこ？

A 葛飾図書館の整備担当係(葛飾区新宿3-7-1 電話03-3607-9201)です。

Q 入会すると何か特典があるの？

A 図書館利用上の優遇規定はありません。この会は読書の促進を通して社会のために貢献し、図書館を知りたい、支えたいという愛読者が作る緩やかな集まりで、図書館と“友達”となる事を目指します。なお、個人情報総務委員会が責任をもって管理します。

色えんぴつ

「ふらんすへ行きたくしと思へども
ふらんすはあまりに遠し せめて
新しき背廣をきて きままなる旅
にいでてみん」と嘆いた詩人が
いた。その詩人とは萩原朔太郎の
こと。「純情小曲集」より「旅上」の
フレーズ。この詩集が刊行されたの
は大正十四年。当時横浜からマルセ
イユの航路は一箇月あまりを要し
た。朔太郎にとってフランスは到底
渡航かなわぬ異国だったのだから
現在成田空港からドゴール空港
まで空路約十二時間。隔世の感があ
る。朔太郎が生きていたならば旅費
を工面してでも赴いただろう。ど
のような印象を受けたか。巴里の小
路まで詳細に覚えていたと言われ
る彼の目に 巴里はどのような街
として映じただろうか、と万感の思
いを抱く。さて私は、大の飛行機恐
怖症で異国を訪れることがまな
らぬ。だから書籍、画集、写真集で
巴里の景観を眺め、想像するだけ。
さはあれど、それらのページを繰り
ながらフランス音楽に耳を傾ける
営みはこよなき慰め、陶然として時
を忘れる。(西村広報委員)

